

5

コイの健康管理と取り扱い

- 飼育コイは、池ごとに生産者名、生産地、移動履歴、飼育水温、発病歴や投薬歴等の生産履歴を記録しましょう。

飼育コイは生産履歴が分かるように池ごとに記録し、保存しておきましょう。コイの飼育管理や、万一、病気が発生した際には、飼育コイの流通経路や原因の解明が可能となり、蔓延防止に役立ちます。



- コイに異常や大量死が見られた場合には、移動や出荷を見合わせ、都道府県の水産試験場等に連絡しましょう。

飼育コイに異常や大量死が見られた場合には、魚の移動や出荷は見合わせましょう。また、KHVの感染が疑われる場合、直ちに都道府県の水産試験場等に連絡し、その後の対応を相談しましょう。

6

KHV検査による安全の確認

- 定期的にKHV検査を受けましょう。

KHV病は目に見えないきわめて小さなウイルスの感染によって起こります。ウイルスの侵入を防止するため、日常の飼育管理を適切に実施するとともに、定期的にKHV検査を受け、安全確認を行いましょ。

- コイが死亡した場合は、KHV検査を受けましょう。

飼育コイに死亡が発生した場合、速やかに都道府県水産試験場等に相談し、KHV検査を受けましょう。死亡原因が確認されるまでは、病気を伝播・拡散させないために移動や出荷は見合わせましょう。また、死んだ魚は必ず埋却か焼却しましょう。

7

KHV病に関する知識の習得

- 日頃から養殖管理およびKHV病に関する知識の習得に努めましょう。

KHVの侵入を防止するためには、KHV病に関する正しい知識を有するとともに、日頃からの適正な養殖管理技術の習得がきわめて重要です。KHV病に関する研修会等が開催される場合には、できるだけ参加し、知識や情報の収集に努めましょう。

*実施されていない項目については、感染リスクを低減するために適正な養殖管理に努めましょう。

コイヘルペスウイルス病に関する情報：<http://www.maff.go.jp/koi/index.html>

平成21年3月



社団法人 日本水産資源保護協会

〒104-0044 東京都中央区明石町1-1 東和明石ビル5F

TEL ▶ 03-6680-4277

FAX ▶ 03-6680-4128

このパンフレットは農林水産省委託事業「平成20年度養殖衛生対策推進事業」により作製しました。

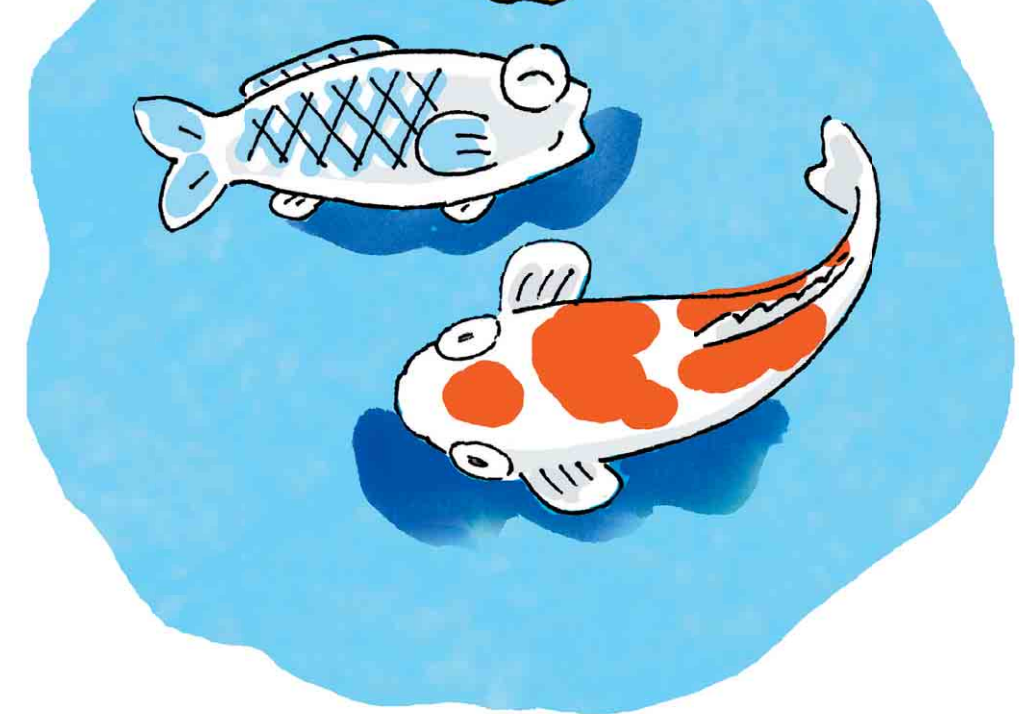
平成20年度農林水産省委託事業



錦鯉養殖場における コイヘルペスウイルスKHV病の 発生を防止するために

養殖管理のポイント

STOP!  **KHVD**



KHVは、感染コイや飼育用水を介して養殖場に侵入します。養殖施設の管理が不十分な場合、人や野生の鳥獣を介して持ち込まれる可能性もあります。また、生産履歴が明らかでないコイは、感染耐過魚や不顕性感染魚である可能性もあります。

KHVによる被害を避けるためには、KHVの侵入原因を正しく理解し、適正な養殖管理を行うことが重要です。



社団法人 日本水産資源保護協会

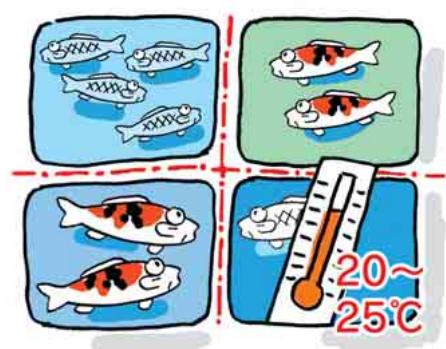
KHV病の発生を防止するためのポイント

1 コイの導入によるKHV侵入の防止

●外部からコイを導入する場合は、卵での導入に努めましょう。
親魚から卵へのKHV感染の危険性はきわめて低いとされています。外部から導入する場合は、可能な限り消毒済みの卵での導入に努めましょう。



●外部から卵以外の稚魚や養成魚で導入する場合は、導入元の施設や飼育管理の状況、KHV病の発生の有無を確認しましょう。
稚魚や養成魚で導入する場合は、KHVの侵入防止のため、生産履歴が明らかで、KHVに感染していないものであることを確認してから導入しましょう。



●外部からコイを導入する場合、必要に応じて安全が確認されるまで魚の由来ごとに隔離飼育をしましょう。
生産履歴の不確かなものを導入しなければならない場合は、KHV病の好適な発生水温である20-25°Cで3週間程度、他の魚と混ぜずに隔離して飼育・観察し、その間にKHV病の発生がないことを確認してから、飼育池に入れましょう。

2 飼育用水によるKHV侵入の防止

●用水によるKHVの侵入を防止するため、できるだけ湧水や井戸水を使用しましょう。
河川水等を飼育用水として使用する養殖施設では、KHVは用水を介して容易に施設内に侵入します。湧水や井戸水などのKHVに汚染されていない清浄水を使用することによって、感染リスクは著しく低減します。

●河川・湖沼水を使用する場合には、紫外線処理による殺菌をしましょう。
河川・湖沼水にはさまざまな微生物が存在しています。紫外線処理を適切に行い、KHVやその他の細菌などを殺菌することによって、各種の病原体による感染リスクを低減することができます。



●用水はできるだけ繰り返し使用しないようにしましょう。
飼育用水を繰り返し使用することによって、KHVなどの病原体が存在している場合、その感染リスクは著しく高くなります。

人の立ち入りや鳥獣によるKHV侵入の防止

●看板等を設置し、関係者以外の養殖施設内への立ち入りを禁止・制限しましょう。
KHVは感染魚を扱った人や無意識に感染施設に接した人を介して別の施設に持ち込まれる可能性もあります。養殖施設内に、関係者以外の立ち入りを禁止・制限することによってKHVの侵入を防止しましょう。

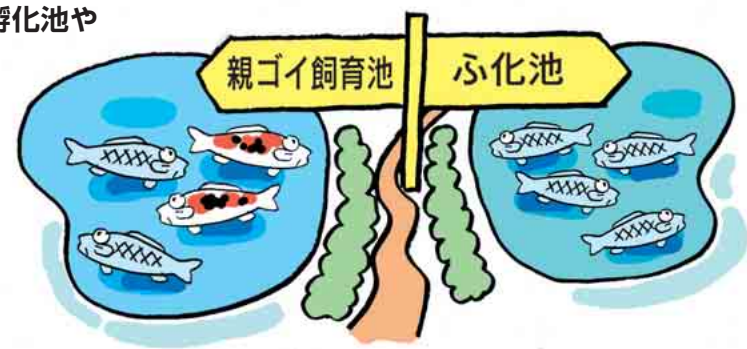
●出入り口は必要最小限とし、踏み込み消毒槽や手指消毒用スプレーを備えましょう。
KHVは各種消毒剤によって比較的容易に不活化することができます。出入り口には塩素剤や逆性石けんなどの踏み込み消毒槽やエタノールなどの消毒用スプレーを常備し、作業する人の長靴や手・指を消毒することによってKHV病の侵入防止を図りましょう。

●鳥獣類の侵入を防止するため、フェンス網や防鳥糸等を設置しましょう。
養殖施設に飛来する鳥や侵入する小動物等を介してもKHVは伝播すると考えられています。これらの鳥獣類の施設内への侵入を防止することによって、KHV病の発生防止に努めましょう。



養殖場内でのKHV感染の防止

●親ゴイや預かりゴイの飼育池は、孵化池や他の飼育池と隔離しましょう。
KHVは感染力の強いウイルスです。感染魚や感染耐過魚*の飼育用水やその飛沫も感染源となります。養殖施設内での親ゴイや預かりゴイ等からの感染を防止するため、これらの経年ゴイの飼育池と孵化池や当歳魚の養成池は隔離して配置することが重要です。



●飼育池は使用後は消毒しましょう。
飼育魚は不顕感染**をしていることも考えられます。使用した飼育池は塩素剤などによって、KHVやそのほかの病原体の消毒を徹底することが病気の発生防止に不可欠です。ただし、塩素剤は魚に対する毒性が強いため、消毒した飼育用水を排水する前には残留塩素がないことを確認してから排水し、十分に池干しする必要があります。

●池替えする場合には、飼育魚は消毒済みの池に移しましょう。
池替え等によって飼育魚を新しい池に移す場合は、必ず消毒済みの池に移すことがKHV病の発生防止に有効です。



●たも網、ブラシ、バケツ等の飼育用具は各池専用のものを用意し、使用後は必ず消毒しましょう。
KHVなどの病原体はたも網やバケツ等の飼育用具によって容易に蔓延します。これらの飼育用具は各池専用のものを用意し、使用後は塩素剤や逆性石けんなどで必ず消毒しましょう。

* 感染耐過魚：KHV病が発生・終息したのちに生き残った魚で、KHVを保持しているため新たな感染源になりやすい。
** 不顕感染：KHVに感染しているが、病徴を表さずに生存しているもので、病気として認識されにくい。

KHV病の発生を防止するためのポイント 養殖管理チェック表

あなたの養殖場では、KHVの感染リスクを減らすために適正な養殖管理が行われていますか。
適正に行われている項目には「○」、十分ではないが行われている項目には「△」、行われていない項目には「×」をつけて
チェックしてみましょう。

チェック項目評価

1 コイの導入によるKHV侵入の防止

- 外部からコイを導入する場合は、卵での導入に努めていますか。
- 外部から卵以外で導入する場合は、導入元の施設や飼育管理の状況、KHV病の発生の有無等を確認していますか。
- 外部からコイを導入する場合、必要に応じて由来ごとに隔離飼育をしていますか。

2 飼育用水によるKHV侵入の防止

- 用水には湧水や井戸水を使用していますか。
- 河川・湖沼水を使用する場合には、紫外線による殺菌をしていますか。
- 用水は繰り返し使用しないようにしていますか。

3 人の立ち入りや鳥獣によるKHV侵入の防止

- 看板等を設置し、関係者以外の養殖施設内への立ち入りを禁止・制限していますか。
- 出入り口には踏み込み消毒槽や消毒用スプレーを備えていますか。
- 鳥獣類の侵入を防止するため、フェンス網や防鳥糸等を設置していますか。

4 養殖場内でのKHV感染の防止

- 親ゴイや預かりゴイの飼育池は、孵化池や他の飼育池と隔離していますか。
- 飼育池は使用後に消毒していますか。
- 池替えする場合には、消毒済みの池に移していますか。
- たも網、ブラシ、バケツ等の飼育用具は各池専用のものを用意し、使用後は消毒していますか。

5 コイの健康管理と取り扱い

- コイは、池ごとに生産地、移動履歴、飼育水温、発病歴や投薬歴等を記録していますか。
- コイに異常や大量死が見られた場合、移動や出荷を見あわせるとともに、都道府県の水産試験場等に連絡していますか。

6 KHV検査による安全の確認

- 定期的にKHV検査を受けていますか。
- コイが死亡した場合は、KHV検査を受けていますか。

7 KHV病に関する知識の習得

- 日頃から養殖管理およびKHV病に関する知識の習得に努めていますか。

* 実施されていない項目については、感染リスクを低減するために適正な養殖管理に努めましょう。

チェック日	年	月	日
養殖場名 (氏名)			